

この指とまれ！

弥富の人・情報・想いをつなぐ

“YTM.Meeting:ヤトミーティング” プロジェクト



YTM.Meeting

何するの？

- ・市内にある様々な人材や場所などの地域資源を、市民のニーズとマッチングさせる仕組みを構築する
- ・市民と行政の共同組織であるヤトミーティングを住民自治組織として法人化する



市民と行政の協働で実施



課題①

気軽に市民同士が繋がれる場・活躍できる場の不足

・市民の中には、得意なことがある、やってあげたいことがある、という人はいるが...

- (1) 支援の方法がわからない
- (2) 活躍の場がない
- (3) 活動する敷居が高い

などの意見もあり、貴重な人材が十分に活かされていない

課題②

人的資源の制約下における、多様化する市民ニーズへの対応

- ・市民には様々な困りごとあり、行政だけでは支援しきれない
- ・市の総人口：2015年では43,269人
2040年には38,808人
➤約4,500人（約1割）の減少
- ・市の老年人口：2040年には12,613人、高齢化率32.5%
- ・人口減少・少子高齢化の進行、市職員数の減少に伴い、暮らしを支える機能が低下していく

事業概要①

(1) 地域資源バンク制度の構築

- ・市内の様々な資源（ヒト・モノ・場所）のマッチングを可能とするため、「地域資源バンク制度」を構築し、そのウェブアプリを制作することで人的資源の情報の見える化を図る

(2) α 拠点の設置・運用

- ・ α 拠点は地域資源バンクの運営を行いつつ、 β 拠点の開設や活動の支援、 β 拠点の紹介やニーズ別の案内を行う
- ・ヤトミーティング主催のイベントなどを企画することで、 β 拠点同士の交流の促進、市民の利用促進を図る

事業概要②

(3) β 拠点の認定制度の設計・運用

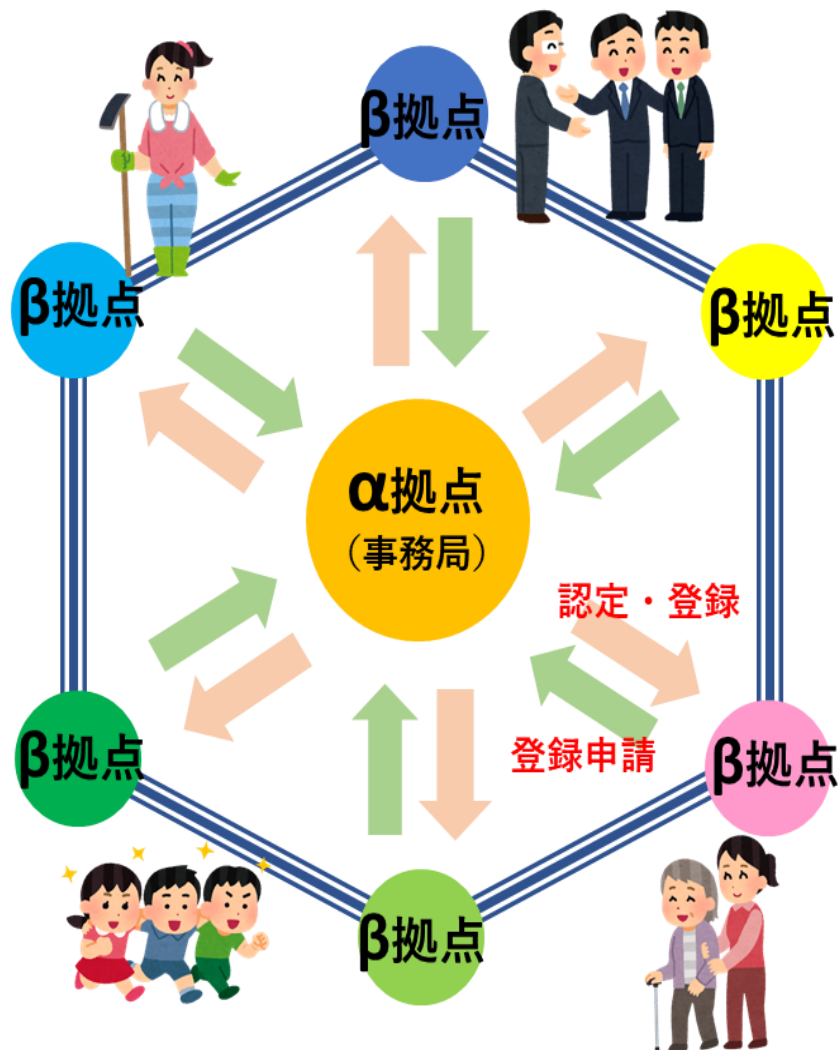
- ・各々個性や得意な分野を活かした活動やその活動拠点等を β 拠点として認定し、推進する認定制度を設ける

(4) ヤトミーティングの法人化

- ・ヤトミーティングが住民自治組織として自立して活動していけるよう法人化する



事業概要（絵）



α拠点の役割

(①マッチング②情報発信③市民活躍の場)

- ・ 資源バンクの構築・管理（人的資源の情報可視化）
- ・ α拠点のPR、情報発信
- ・ β拠点の認定・登録・管理
- ・ β拠点間の交流、情報共有の促進
- ・ β拠点の開設支援、β拠点活動のPR
- ・ 市民活躍の場（イベントなどの開催）
- ・ 運営資金の確保

β拠点の役割

(個性や得意な分野を活かした活動)

- ・ 資源バンクへの登録
- ・ β拠点同士の連携した活動
- ・ α拠点への情報提供

事業概要（期間等）

事業期間：3年（R4～R6）

総事業費：1,500万円（500万円／年）

事業期間における各年の位置付け

【令和4年度】プロジェクト実施に向けた検討・準備段階

- ・ α 拠点の具体的活用に向けた検討
- ・ β 拠点の制度設計
- ・地域資源バンクの仕組み構築

【令和5年度】準備段階を経たプロジェクトの試験運用段階

- ・ α 、 β 拠点の試験運用
- ・地域資源バンクの試験運用

【令和6年度】

- ・継続的・自立的なプロジェクトの展開に向けた本格運用の開始

将来像

- ・「市民が何かに困った時」、「何かを頑張ろうと思った時」に、誰もが活路と活躍の機会を見出せるまちの実現



- ・人と人がつながることで安心感や賑わいを醸成し、ずっと住み続けたいと思う住民を増やしていく